

サクラソウの個体群の維持を目指した森林施業の検討

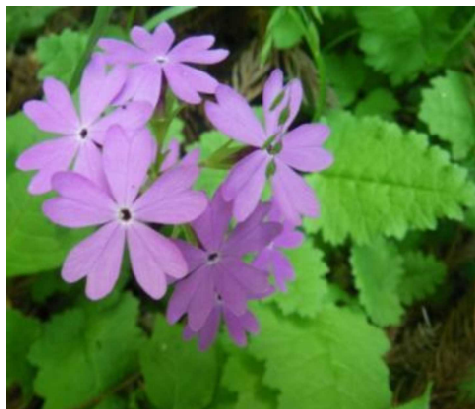
計画保全部 計画課

サクラソウの特徴

サクラソウは、北海道から九州に生育する多年草の植物で、やや湿った火山灰土壌の落葉広葉樹林や野原など、比較的明るい環境に多く生育しています。その繁殖形態は特徴的であり、種子繁殖と根茎繁殖の双方を行います。

また、サクラソウは、花の色や形の美しさから、江戸時代から園芸品種としても、親しまれてきました。

しかし、近年では、園芸採取や道路工事、ゴルフ場などのリゾート開発等が要因となり、生育地が減少している希少植物です。



国有林を活用した実践研修
(現地検討)

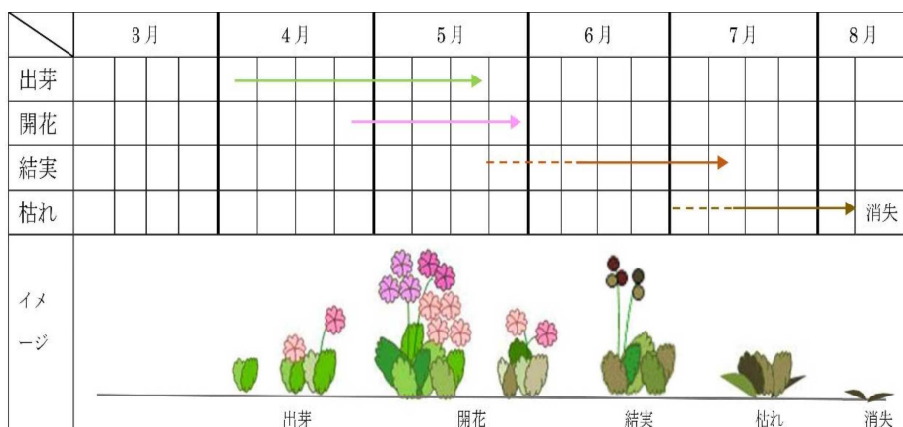
現在では、日本国内の絶滅のおそれのある維管束植物（環境省準絶滅危惧種、群馬県絶滅危惧Ⅱ類）に指定されています。

希少野生生物の保護・保全に向けた取組

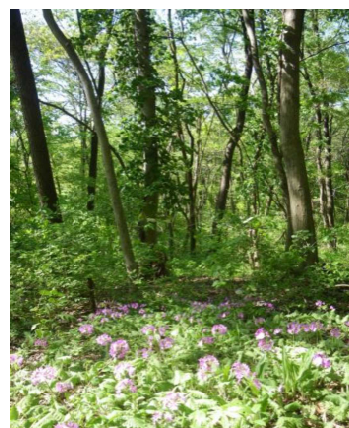
関東森林管理局では、希少野生生物の生息・生育環境の保護・保全のため、対象となる希少種に関する科学的なデータを収集するとともに、外部の専門家からなる検討委員会に助言を求めながら、希少野生生物の保護・保全と森林施業等との調整を図った上で、各種事業を実施しています。

群馬県西部の吾妻地域の国有林を管轄している吾妻森林管理署の管内には、スギ人工林を主体とする林内にサクラソウの個体群が点在している地域があります。

この地域のサクラソウの個体群を将来にわたって維持していくことを目指し、スギ人工林の森林施業のあり方等について、サクラソウの生育状況等の調査結果を踏まえ、専門家の指導の下、検討しました。



調査地におけるサクラソウのフェノロジー



サクラソウ群落

③ サクラソウの生育地の光環境を調査したところ、春先の太陽光が開花に大きな影響を与えていることがわかりました。



サクラソウ群落

① サクラソウのフェノロジー（植物の生活史の季節変化）は、4月上旬に出芽が始まり、5月上旬から中旬に開花のピークを迎えます。その後、8月に地上部が枯れ、地下に残った地下茎が翌年の出芽を待つというサイクルが把握されました。

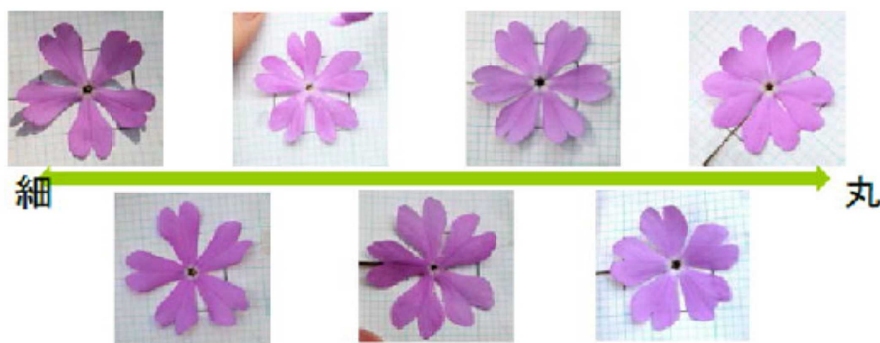
② サクラソウは、周辺に生育する植物よりも先に萌芽・開花し、トネアザミやミズヒキ、クサコアカソ、モミジガサ等の一部の植物と同じ場所で生育していることが確認されました。

④ 多くのサクラソウは、人工林の適地でもある黒色土壌群に分布していました。黒色土壌は空隙が多く、保水力があるため、サクラソウの生育に有利に働いていると考えられます。



スギ人工林とサクラソウ

⑤ 調査地全体で、推定15万株以上のサクラソウが生育しており、特に、沢や窪地、緩傾斜地や作業道、広葉樹の近くという条件を好むことがわかりました。また、皆伐地での生育も確認されたことから、埋土種子が発芽した可能性が考えられます。さらに、花卉の違いや訪花昆虫の痕跡等から交配による種子生産が行われていると考えられ、多様な環境に順応し、根茎繁殖に偏っていない、遺伝的な多様性が高い個体群であることがわかりました。



サクラソウ花卉の多様性

サクラソウの個体群の維持を 目指した森林施業の検討結果

調査の結果、サクラソウの生育には、光環境が重要であることがわかりました。このため、下層植生の繁茂を抑制し、光環境を改善することができ、下刈・除伐や間伐等の森林施業の実施が重要です。結実期以降にこれらの作業を実施

することにより、現存する個体を守りつつ、サクラソウの初期成長と開花を促すことができます。また、路網作設等の適度な攪乱は、サクラソウの種子繁殖を促します。



生育状況調査

これらのことから、サクラソウの個体群の維持と森林施業の両立は可能と考えられます。

今後は、貴重なサクラソウの個体群を維持できるよう、適切な森林施業を実施し、施業の実施後のサクラソウ群落の動向をモニタリングしながら、よりよい森林施業の方法をさらに検討してまいります。

今月の表紙

急傾斜地における架線系高性能 林業機械を活用した一貫作業シ ステム実証試験

天竜森林管理署では、本実証試験を平成26年度から龍山町瀬尻国有林、平成27年度は春野町狙小路国有林で実施してきました。

今回、コンテナ苗・架線系一貫作業システム現地検討会(デモンストレーション・講演会、シンポジウム等)や中間報告会等を経て取りまとめ、地域の森林・林業関係者の皆様に広く普及を図るため、平成28年5月17日に浜松市地域活動研修センターにおいて、成果を報告会として発表しました。

